

広島県における防災・減災に向けた取組み 「土砂災害 啓発・伝承プロジェクト」の 推進について

広島県 土木建築局 砂防課長 さとう やすゆき 佐藤 保之

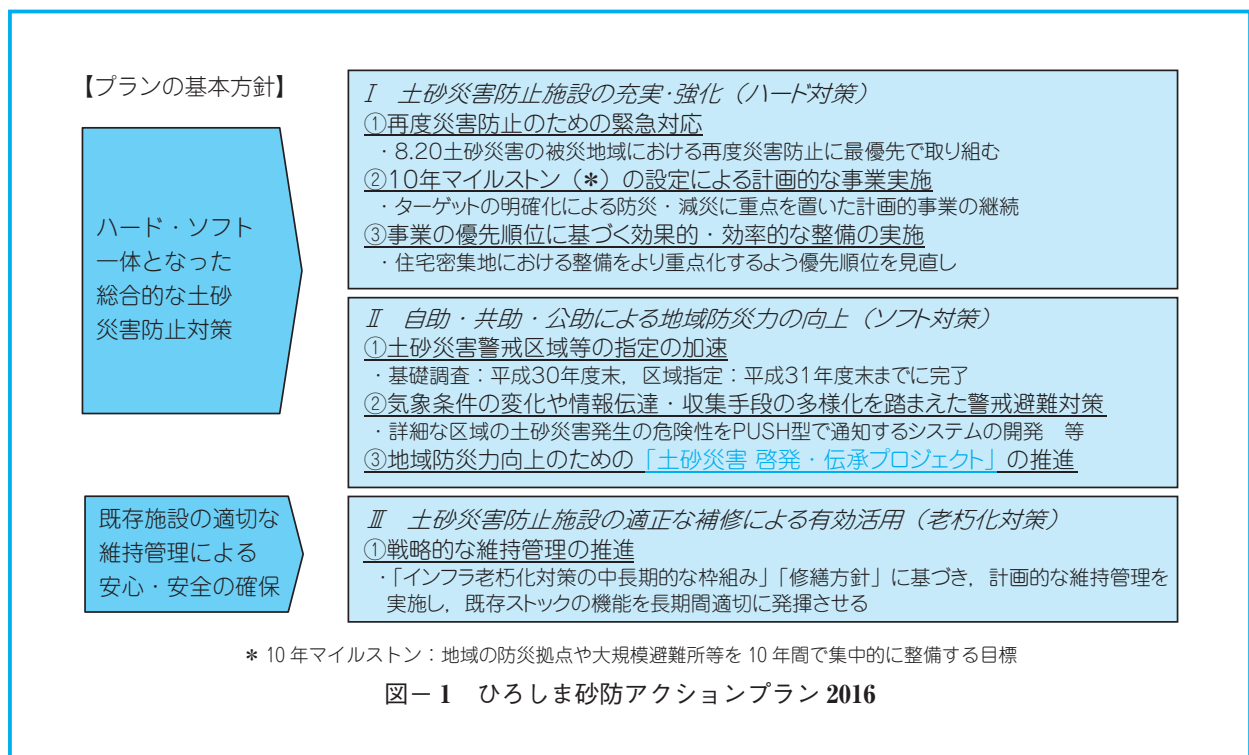
1. はじめに

広島県は、風光明媚な瀬戸内海や中国山地など豊かな自然に恵まれ、日本三景のひとつ「宮島」をはじめ、歴史・文化・景観が調和した観光資源にも恵まれています。

その一方で、土砂災害危険箇所が全国最多で、平成26年8月の土砂災害をはじめ、近年においても、人的被害を含む甚大な被害をもたらした土

砂災害に幾度も見舞われています。

そこで、防災・減災対策の充実・強化を図るため、「ひろしま砂防アクションプラン2016（以下、「アクションプラン2016」という。）」を策定し、選択と集中による効果的・効率的なハード面の整備の推進や、土砂災害警戒区域等の指定の加速化等に加え、県民の土砂災害に関する防災意識を高め、地域に確実に根ざしていくため、「土砂災害 啓発・伝承プロジェクト」をスタートさせました（図-1）。



2. 「アクションプラン 2016」の概要

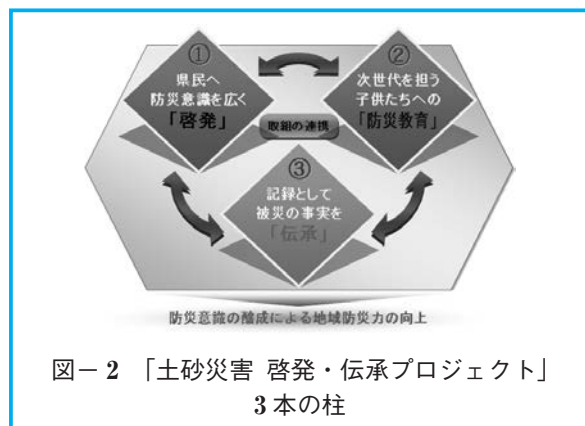
広島県では平成 23 年度より、概ね 10 年後を展望して県が目指す将来像を示した、県の総合計画「ひろしま未来チャレンジビジョン」に基づいた各種施策を展開しているところであり、土木建築局においても、「ひろしま未来チャレンジビジョン」が目指す県土の将来像を実現するための、社会資本マネジメントの基本方針となる計画「社会資本未来プラン」を策定しています。

「ひろしまアクションプラン」は、「社会資本未来プラン」の砂防分野の事業別整備計画として平成 23 年度から策定しており、平成 26 年の 8.20 土砂災害を踏まえ、図-1 の基本方針に基づき平成 28 年 3 月に、新計画となる「アクションプラン 2016」を策定したところです。

3. 「土砂災害 啓発・伝承プロジェクト」

平成 26 年 8 月の土砂災害により、甚大な被害があった地域は、過去にも近隣の地域で土砂災害が発生していることから、再び同じ被害を繰り返さないためには、災害の記憶を風化させずに、被災の事実を後世に伝承していく必要があります。

そこで、「土砂災害 啓発・伝承プロジェクト」では、①県民に防災意識を広く「啓発」し、②次世代を担う子供たちへの「防災教育」や③災害記録を後世に確実に「伝承」していく 3 本の柱で、地域防災力の向上を推進していきます（図-2）。



(1) 県民へ防災意識を広く「啓発」

「啓発」分野では、土砂災害防止月間における集中的な情報発信など、県民への防災意識の醸成を促進することを通じて、県民一人一人が土砂災害から身を守る知識を身につけている状態の実現を目指します。

本年度は、「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」が制定される契機となった、昭和 42 年呉市豪雨災害（写真-1）の発生から 50 年の節目となることから、呉市において「土砂災害防止 県民の集い」を開催しました。

当日は地域住民や県・市町の土木・防災関係者等約 400 人が参加し、土砂災害に対する理解と関心を深めました。

さらに、土砂災害防止について、広く啓発していくため、マスコミ関係者などに対し、直接、広島県砂防課職員が土砂災害の現状と課題を説明し、担当する番組の中で取り上げるよう働きかけを行った結果、本格的な出水期前に集中的な啓発活動を行うことができました（写真-2）。



(2) 次世代を担う子供たちへの「防災教育」

「防災教育」分野では、次世代を担う子供たちに対する防災教育「砂防出前講座」を通じ、土砂災害への意識を高め、災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、自らの安全を的確に確保する行動ができる状態の実現を目指しています。

具体的な取組みとして、小中学生に土砂災害について、県職員や砂防ボランティアが講義を行う「砂防出前講座」(写真-3)を積極的に実施することに加え、学校自ら防災教育を行う体制構築をめざし、以下の取組みを推進しています。



写真-3 砂防出前講座

① 担い手の育成

学校安全指導者(教師)や教師を目指す学生等に対し、県職員が土砂災害について説明し、防災教育の担い手を育成しています(写真-4)。



写真-4 学校安全指導者講習会

② 手引き作成

教育委員会と連携し、「土砂災害防災教育の手引き」作成を支援し、先生自ら防災教育を行う体制を構築しています(写真-5)。



写真-5 広島市手引き作成委員会

③ ポータルサイト設置

防災教育を行う方を支援するため、平成28年8月に土砂災害に関する映像や図表・写真等をまとめた専用のポータルサイトを設置しました(図-3)。



図-3 ポータルサイト

(3) 記録として被災の事実を「伝承」

「伝承」分野では、地域の方から提供された過去の土砂災害に関する写真等を「地域の砂防情報アーカイブ」において記録・保存し、地域の災害伝承や防災教育等に活用できるようにします。加えて、子供たちが、学校の学習発表会等の機会を通じて、家庭や地域の方へ、過去に身近で起きた土砂災害について発表するなど、“新たな地域の語り部”を育成することにより、過去の災害が確実に地域住民へ伝承されていく状況の実現を目指しています。

具体的な取組みの一例として、県砂防課で運用している、土砂災害の情報を収集・記録・共有するインターネットサイト「地域の砂防情報アーカイブ」で公開した被災写真等を活用し、地域の被災経験者による被災体験談（写真－6）などと併せて、小中学生に対して地域で過去に発生した災害の事実を知り、学んでもらう「砂防出前講座」を開催しました。



写真－6 地域の語り部による「被災体験談」

また、後日、小学校の学習発表会や防災訓練において、「砂防出前講座」を受講した児童たちにより、他の学年や家族、地域の方々に対して、過去に地域で発生した土砂災害についての発表が行われました（写真－7）。

広島県では、今後とも「地域の災害は地域で語り継ぐ」体制の構築を支援していく予定です。



写真－7 発表会で地域の方に過去の災害を伝承

4. おわりに

土砂災害は一度発生すると、生活や社会・経済活動に重大な影響を及ぼすことから、「ひろしま未来チャレンジビジョン」の基本理念である「安心な暮らしづくり ～防災・減災～」の実現を目指し、これからも「アクションプラン」に基づいた、土砂災害対策の着実な推進に取り組んでいきます。

なお、「アクションプラン2016」の詳細および8.20土砂災害の被災写真などを掲載した「地域の砂防情報アーカイブ」（図－4）については、広島県のHPで公開していますので、下記サイトからぜひご覧になってください。



※広島県ホームページ

【トップページ】⇒【組織でさがす】⇒【砂防課・土砂法指定推進担当】
⇒【「ひろしま砂防アクションプラン2016」の策定】
⇒【土砂災害ポータルひろしま】⇒【地域の砂防情報アーカイブ】

図－4 ひろしま砂防アクションプラン2016（左側）と地域の砂防情報アーカイブ（右側）